

令和3年度 県立歴史館協議会
欠席の委員からのご意見

【浮貝委員】

- 今回、詳細な事業内容等を初めて拝見し、コロナ禍でも様々な事業やイベントを展開されていることに驚きと感銘を受けました。同時にこのような取り組みがもっと認知、評価されるべきだとも感じました。
- 若い世代や子育て世代にも足を運んでもらえるイベントや企画展がさらに増えると良いと感じました。

【中村委員】

- 令和2年度(2020年度)評価表の「学校教育を支援します」について

項目	歴史館 自己評価	中村委員意見
○学校見学時のバックヤード探検の実施	A	コロナ禍でも少人数に分けて見学案内をしたり、ルートが重ならないように工夫したりして学校の見学に対応していただいた。就学旅行が県内に変更される中、見学先として館を選ぶ学校もあった。工夫して対応くださったのでA評価でよい。
○博物館実習・職場体験学習の受入	B	A評価でよいと考える。 (理由)コロナ禍で人数制限などせざるをえなかった中で、工夫して希望者受入100%となっている。たとえ人数が少なくとも、現状で最大限の工夫をして対応できたと考えられる。

【久留島委員】

- 令和2年度評価表について

表のなかにコメントを赤字で記しました。参加できれば、その場で解決するような簡単な質問や感想にすぎないのですが、とりあえず記しました。評価は、当日参加の皆様に従います。なお、あわせて資料3を読み、「コロナ下」での制約があるとはいえ、博物館としての活動を十分にしていच्छることに、心から敬意を表したいと存じます。なお、以下の点について、私見を述べさせていただきます。

- 1)「コロナ下」での博物館活動については、わたしは十分だと考えています。目標を数値化してしまう弊害がここでは明らかで、このような非常事態では「評価不能」という評価もありだと思っています。今後の目標設定の際も、参加者からの「評価」を踏まえた「内容的な自己評価」(数値には換算できない)をも重視することが不可欠だと思います。
- 2)そのうえで、「コロナ下」でもできることを計画的に実施する以外に、今後こうした「非常事態」が起こったときの有効な対応は出来ないと思います。その意味では、館として調査・研究をどのように実施し、どのような成果があったのかについての自己分析、個々の学芸員が館の業務と関わってどのような研究活動をしたのかについての自己検証が必要なのではないかと思います。この点、資料3の年報57頁の「学芸研究会」は、たいへん評価できると思いますが、「3、時代別研究会」では何をされたのかが不明です。学芸研究会は、個々の学芸員の研究成果だとすると、「時代別研究会」は、館の研究活動にあたるのではないかと「拝察」します。もし、何か特筆すべきことを実施されているなら、ここに明記すべきかと思います。
- 3)ホームページの、古文書公開日記51「疎開学童の慰問」は、たいへん興味深く拝見しました。これを含めてブログは充実していると思いました。ホームページへ、実際に来館できない人びとをどのように誘うか?は大きな課題だと思います。他人事ではないのですが。

○令和2年度(2020年度)評価表に対する意見

項目	歴史館 自己評価	久留島委員意見
○館設定研究テーマの調査・研究	B	「コロナ下」で制約された活動についての評価は、目標に達しないのは当たり前だと思う。以下、自己評価を尊重するが、Bの場合でも、利用者評価が高い場合はAという判断もあり得る。
○未整理現代史料の整理を進める。	B	27件の内容がよくわからないので、Bにした根拠が不明。Aでもよいのではないかとも思う。
○常設展示室たより「資料が語る」の作成 ○展示解説・ギャラリートークの実施	B	展示解説のHP公開などは、評価してしかるべきだと思う。これを機会に、充実させる必要がある。その点で、自覚的に今後の課題とするならB。
○博物館実習・職場体験学習の受入	B	参加者の評価が高いうえ、希望校の90%という数値目標を考えるとA。ただし、館の判断で「制限した」ことを気にするならB。とりあえずB。
○教員研修への協力、実施	B	回数は少なくとも評価は高いが、希望者の制限をしたことを気にするならB。
○ホームページによる情報提供	B	展示解説動画の評判はどうか。工夫しているし、来館できない人が増えているなかで、歴史館HPへのアクセス数が減っていること自体の原因を検討する必要がある。
○ビーコン(可視光ID多言語コンテンツガイドシステム)の活用	C	この点は、どの博物館でも同様(歴博でも使用停止)で、Cではなく「評価できない」とすべき。ただし、使えないときにこそ、新たなプログラム開発や情報発信の工夫をしておく必要はあるので、この点を自覚的に考えてCとするのならそのままよい。
○来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流の場提供	B	「コロナ下」でもっとも難しいはずの人的交流の機会を少しでも設定したことはもっと評価すべきか。 (A評価に変更)
○古文書愛好会の育成と活動支援	C	(「評価不能」に変更)
○運営サポートボランティアの育成	B	体験はきわめて難しいし、解説も制約されていることは仕方の無いこと。作業ボランティアが実施でき、そのことに対する積極的な評価があることを踏まえると、Aでもよいと考えるが、とりあえず自己評価どおり。
○利用者アンケートの活用	B	少ないとは言え、利用者アンケートの内容がわからないうえ、HPへの評価も不明なので、Bとする。
○出前講座等の開催	B	人数制限を余儀なくされているなかで、「ほぼ上限人数参加」があり、評価も高いので、Aでよい。
○おでかけ歴史館事業の実施 ○出前授業の実施	B	おでかけ歴史館事業10回の目標が6回になったという点を気にするならB。希望校への実施は1校であっても100%。私はAでよいと考えるが、とりあえず自己評価を尊重する。
○地域の活性化に寄与する積極的な情報発信	B	(令和4年度企画展の)調査・研究内容が不明。明記すべき。
○歴史的な水害を伝える史料の活用研究会への調査協力・連携	B	目標とどこが異なっているのか不明。具体的に示すことが必要。
○ホームページなどによるデータベース・デジタルアーカイブの提供	B	それなのに、なぜ利用回数が減少したのか、についての自己評価が必要。

○令和3年度活動計画について

前年同様に、緻密に計画されていると思います。ビーコンの活用は、「コロナ」の影響が残ることを前提として、今年度は目標から落としたのだと思いますが、逆にこのようなきだからこそ、むしろ内容(プログラム)を充実させるとか、「解説動画」の積極的な活用などを組み込んでもよいのでは、と思いました。